

〈ミッション〉  
自 立  
追 究  
共 生



# 未来創造

松江市立義務教育学校  
玉湯学園 だより  
令和8年1月20日  
文責 田中 修

今年度のキーフレーズ

～自ら「気づき・考え・実行する」玉湯学園生のプライドをもって Let's GO～

ホームページもぜひご覧ください！



二次元コードをご利用いただくか、「玉湯学園ホームページ」で検索ください。  
※「つれづれ日記 2025」の写真については、活動の様子が分かる範囲にし、明度や彩度を低くしております。お気づきのことがありましたら、ご一報ください。

**I hope  
you will have a great year!**

あなたにとって、すばらしい年になることを願っています！（直訳）

新しい年を迎えました。皆様にとってすばらしい1年となりますようお祈りいたします。

今年も、始業式の最初のあいさつは英語にしました。冬休みに出会った生徒が「今年は『おめでとう』が言えないんです。」と話してくれました。お一人お一人、様々な思いでお正月を迎えられたことでしょうか。まずは誰にとっても「すばらしい年になる！」ことに希望を込めてスタートしたいと思います。

そのような中、大雪や思いもよらぬ大地震がありました。被災された皆様には、心よりお見舞申しあげます。

当日、部活動をしていた生徒は、すぐに玄関前の安全な場所に整然と避難しました。また、児童クラブでは指示を受ける前に、机の下にもぐって頭を守り、自主的に危機回避行動がとれたと職員の方が感心しておられました。

しばらくは、警戒レベルを高めての対応が必要です。ご家庭でも、お気を

つけください。



昨年、たまゆ幼稚園のこどもたちからしめ飾りをいただきました。松の内の間は、校長室前に飾らせてもらいました。

## 学園の活動 あれこれ☆彡

「気づき・考え・実行する」3学期に  
～始業式で～

始業式は、リモートで行いました。例年よりもインフルエンザの流行が早いことや悪天候などを想定し、2学期から計画をしていました。結果として、地震対策にもなりました。

今回は紙とハサミを使い、図形の変形（展開）を例にして、「課題を設定し、仮説を立てたり相談したりして考えを深め、実際に確かめる作業を通して解答を求める」という学習過程について話をしました。

AIの進化により、解答（回答）を求めることは非常に容易になりました。しかし、それが本当に正解なのか、最適解なのかは分かりません。結果と同様に、そこに至るまでの過程、しくみや内容などの吟味、経験や体験を活かすことなどが、ますます重要になるでしょう。また、興味や関心を抱いて課題を設定することは、人間の得意分野であり、個性が活かされるところでもあります。

・・・などと、難しい話をしても、「??？」で終わりますので、当日はクイズ形式にしたわけです。そして、次の言葉にまとめました。

「3学期は、次の学年のスタートとなる大事な学期です。4月すぐにジャンプアップできるように、しっかり準備してください。すばらしい一年にするためにも、『自分で気づき・しっかりみんなで考え・正しく実行できる』ように、楽しくがんばってください。もう1つ。がんばっている友達の邪魔をしてはいけません。がんばって勉強できるように、お互い助け合ったり、支え合ったりしてください。」

## 様々な活躍を紹介します

### ～ 役生任命・全校表彰 ～

学級閉鎖の関係もあり、2学期にできなかった表彰を、1月9日(金)の生徒会長・副会長の任命式にあわせて行いました。

※ () は学年、敬称略

○ビギナーバレーボール大会

女子の部「優秀選手賞」 木村(8)

○島根県小中学生科学作品展

「入選」 松山(8)

○島根県読書感想文コンクール

「優良賞」 松山(8)

【役生任命】 生徒会長 小村(8)

副会長 石川(8) 宍道(8)

また、表彰はありませんでしたが、技術科の学習を深化させて取り組んだ次の2作品が、全国大会に出品となったので紹介します。

○中学生創造アイデアロボットコンテスト

中四国地区大会 パフォーマンス部門

「審査員奨励賞」

朝絶対起こすマン〈ロボット名〉

○木工チャレンジコンテスト

「全国1次予選通過」 坂本(8)

いずれも1月31日(土)に全国大会があります。(木工チャレンジはオンライン)

## 「ダメ。ゼッタイ。」

### ～ 薬物乱用防止教室(8年生) ～

1月14日(水)、学校薬剤師の新宮さんを講師に、8年生を対象として薬物乱用防止教室を実施しました。

薬物乱用問題は、全世界的な広がりを見えています。人間の生命はもとより、社会や国の安定を脅かす深刻な問題です。先日も戦争の引き金になりそうな世界的なニュースもありましたし、薬物の危険が身近に迫っているような地方版のニュースもありました。



違法薬物に近づかないこと、近づけないこと(断る勇気)はもちろん、必要な薬であっても間違った使い方をせず、健康で安全な生活が送れるようにしていきましょう。

## 社会のためになる活用を

### ～ プログラミング学習(6年生) ～

以前にもお伝えしたことがありますが、前期課程ではいずれかの教科学習の中で、プログラミング的な思考を養う学習をすることが求められています。

1月15日(木)には、Rubyプログラミング少年団の高尾さんを講師としてお招きし、6年生が各学級1時間ずつプログラミング学習に取り組みました。

この日は、マイクロビットという商品の加速度センサーの機能を利用して、振動の回数を計測をするという内容で、理科の授業として扱いました。動かすためのプログラムはスモウルビーで、これは松江市で開発されたプログラミング言語です。



高尾さんから「『プログラムができました』『カウンターが動きました』で終わるのではなく、それが何の役に立つのか、社会の中でどのように活用できるのかなど、目的をもって向き合ってほしい。」とお聞きし、始業式での学ぶことの話と同じだと、嬉しくなりました。

## 一人一人の幸せ、みんなの幸せ ～介護出前授業(9年生)～

1月15日(木)、9年生の家庭科の授業は学年合同で、介護の出前授業を受けました。

講師は、特別養護老人ホームゆめハウスの介護福祉士さん2名がお務めくださいました。後期課程の生徒は、5年生で福祉について広く学習しています。今回は家庭科の学習の中で、特に高齢者の介護について学びました。



ケアマネジャーの立場からお話をいただきました

「人と人との、温かなつながりを感じられること」「『ありがとう』の言葉や気持ちがすぐに伝わってくること」などを仕事のやりがいと上げられた職員さんの声をお聞きし、素晴らしいお仕事だと実感しました。

## “玉 琢かざれば 器を成さず” ～進級説明会(6年生)～

この時期、各中学校では入学説明会が企画されますが、玉湯学園では「進級」説明会を、1月16日(金)に6年生児童と保護者を対象に実施しました。

進級すると、中学校の教科書を使用しますし、教科数が変わります。また、50分授業になったり大休憩がなくなったりと、時程も変わります。一方で、中期ブロック(5～7年生)から複数教科で教科担任制の授業をしていますし、ブロック集会や学校行事などを通して後期課程の生活の様子に接していることもあり、「中一ギャップ」と呼ばれるほどの抵抗感はないと思います。それが、義務教育学校の最大の強みでもあります。



プログラミングでロボット操作(技術)

進級を機会に6年生に伝えたのは、3年後の進路意識をもつことの大切さです。進学にせよ進級にせよ、小学生から中学生になる際(公立の場合)は、校区によって通う学校が決まっています。しかし、3年後に9年生として卒業する際は、自分自身で進路先を定め、自力でその道を切り拓いていかなばなりません。そのための学力、体力、人間力を、自分自身で身につけ伸ばしていく3年間にしてほしいのです。まさに、自立の力が問われます。

## “玉 琢かざれば 器を成さず” 人 学ばざれば その道を知らず”

後期課程の7年生・8年生・9年生を見習って、「自分自身で自分を磨いて、鍛えて、成長してほしい」と思っています。

なお5校時には、すでに後期課程の教員が授業している社会科や音楽科、新教科として取り組む技術科の授業を公開し、保護者の皆さんにも見学してもらいました。



鑑賞の授業で曲想について考える(音楽)



グループでの協働的な学習(社会)

## 低学年が楽しく交流しました ～おもちゃランド(1・2年生)～

年末年始、インフルエンザの流行のために本学園でも複数のクラスで学級閉鎖がありました。その影響で、当初予定していたよりも1週間延期されていた“おもちゃランド”が1月20日(火)にありました。

2年生が学びを生かしたおもちゃを作り、1年生を教室に招待して遊びを通して、交流しました。おもちゃは、とても工夫がありました。ゴムや磁石の力を利用したおもちゃ、風や空気の性質を利用したおもちゃ、乾電池の転がる動きで進むおもちゃと、見ているだけでとてもワクワクしました。また、的あてや得点を競うゲームにしたり、カーレースをしたりと、使い方にも工夫が見られました。説明したり、雰囲気盛り上げたりと、店員さんとして上手にコミュニケーションをとっている2年生でした。



真剣に魚釣りゲームをする1年生



ルール説明もバッチリな2年生

「1000点取れた～!」「大きいワニが釣れたよ」「すごくスピードが出た～」と、1年生は大はしゃぎで、笑顔がはじけていました。

学校評価では、異学年交流の取組に対して、保護者の皆様から高い評価をいただきました。引き続き、他者とよりよく生きていくための「人間関係力」を育んでいきたいと思ひます。

## 地震が起きて考えたこと ～校長雑感～

### ★備えあれば憂いなし…

冒頭に、地震当日の様子を紹介しました。

実は12月4日(木)に、地震を想定して全校避難訓練を実施していました。児童生徒が、頭部を守ったり、安全確保のために初期避難行動がとれたりしたのは、1カ月前の訓練がよい影響をもたらしたのではないのでしょうか。

地震から数日後に、「一人で留守番していた児童が慌てずに行動できた」「公民館に自主的に避難した」「祖父母の家に連絡を入れていた」などの避難行動をとった児童生徒の情報を耳にしました。

本当に素晴らしいことだと思ひましたし、日ごろから「もしも」に備えておくことの必要性を改めて感じました。

### ★当事者意識をもつこと…

第1校舎は耐震性に優れているため、6日の地震で屋外避難していた生徒は、寒さによる体調不良を防ぐ目的で、まがたまホールに移動して保護者の迎えを待つことにしました。その後、1時間を経過してから、迎えがなくとも自力で下校してもよいとの許可を出しました。

後日、市内各校長と情報交換した際には、校庭に留まったり体育館を利用したりと、避難対象の人数や建物の耐震性、被害状況、当日の天候など様々な状況を考慮して異なった判断がなされていました。

また、本校の職員室は職員が情報収集しながら待機できたので本部の機能を果たしましたが、教職員が避難場所に移って生徒の対応をしていた学校では電話が鳴り続いたようです。本校でも、火災や洪水などの災害、より大きな地震災害などで対応が迫られたときには、同様のことが起こります。

ご心配のことと存じますが、災害時には電話連絡を控えていただきますようお願いいたします。学校としても、テトル配信で情報提供するなど、よりよい方法を考えたいと思ひます。